
西南支部ニューズレター（44号）

2014年11月5日

<内 容>

1. 2014年度支部例会開催のお知らせ
 2. 2014年度支部総会開催のお知らせ
 3. 2014年度支部役員
-

1. 2014年度支部例会開催のお知らせ

2014年度支部例会として、海洋気象学会、水産海洋学会と共催して、以下のとおり、九州沖縄地区合同シンポジウムを開催します。

2014年度 九州沖縄地区合同シンポジウム
(日本海洋学会西南支部・海洋気象学会・水産海洋学会合同シンポジウム)

「東シナ海及びその周辺海域のリモートセンシングによる気象・海洋観測」

コンビーナー：久木幸治・小賀百樹（琉球大学理学部）・渡慶次力（宮崎県水産試験場）

日 時：2014年12月5日（金）10:40～16:40

場 所：琉球大学理系複合棟1階102講義室

http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/images/campusmap2014_large.jpg

http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/access/index.html

<プログラム>

10:40 開会の挨拶

10:45 【基調講演】○市川 香(九大応力研)

リモートセンシングによる東シナ海の流速観測

11:20 ○亀田卓彦(水総研セ西海水研亜熱帯セ)、増島雅親(水総研セ中央水研)

鈴木伸明(水総研セ国際水研)

リモートセンシングによるクロマグロ産卵場の環境モニタリング

11:40 休憩

13:00 ○渡慶次力、甲斐史文(宮崎水試)、清水学、市川忠史(水総研セ中央水研)

広瀬直毅、千手智晴(九大応力研)

漁船が計測した日向灘漁海況の変動特性

13:20 ○吉江直樹、坂本航平、中川美和、佐藤業大、堤英輔(愛媛大沿岸セ)

黒潮フロント渦に伴う東シナ海黒潮域の植物プランクトン群集構造変化

13:40 ○宮尾泰幸(九大院総理工)、磯辺篤彦(九大応力研)

曳航式バルーンを用いた沿岸海洋前線周辺の熱赤外観測

14:00 ○高山勝巳、広瀬 直毅(九大応力研)、鬼塚 剛(水研セ瀬戸内水研)

東アジア縁辺海物理・生態系結合モデルの開発

14:20 休憩

14:30 ○加古真一郎(鹿大院理工)

長江希积水が東シナ海の海面水温変動に与える影響

14:50 ○滝川哲太郎(水大校), 三輪洋介(京都海洋セ), 森本昭彦(名大水循環セ), 吉川裕(京大院理)

東シナ海における ADCP 定点観測と人工衛星海面高度偏差から見積もられた潮流

15:10 ○中村啓彦, 平中陸(鹿大水産), 安倍大介, 齋藤勉(水総研セ中央水研)

東シナ海上の季節風が励起する九州東方沖の黒潮小蛇行

15:30 ○後藤祥太(琉大院理工), 藤井智史(琉大工), 御手洗哲司(沖縄科技大)

沿岸海洋環境観測のための高分解能海洋レーダの開発

15:50 ○山口博愛(九大院総理工), 広瀬直毅(九大応力研)

潮汐モデルを利用した海底地形データの補正

16:10 総合討論

【開催趣旨】

東シナ海は大部分が水深 200m より浅い海域で、大陸棚の面積がそのかなりを占めている。さらに、大陸から豊富な栄養塩が東シナ海には供給されている。そのため豊かな水産資源に恵まれている。またこの海域は、多くの魚の産卵・生育場となっている。東シナ海大陸棚斜面域に沿って黒潮が北上し、太平洋岸へと流れている。こうした魚の移動には、この海域における海流が重要な役割を担っている。このように東シナ海は水産・海洋学において重要な海域である。そのためこの海域では、多くの水産・海洋学のための観測・モニタリングが様々な手法によって行われている。これらの手法のうち、重要なものの一つとしてリモートセンシングがある。そこで本シンポジウムでは、東シナ海及びその周辺海域のリモートセンシングによる気象・海洋観測によって得られた知見・課題について議論する。或いは現場観測・数値計算などの立場から、リモートセンシングに何を求めるかなどについても議論したい。

問い合わせ先：久木幸治（琉球大学理学部）

電話：098-895-8515

E-mail: hisaki@sci.u-ryukyu.ac.jp

2. 2014 年度支部総会開催のお知らせ

以下の予定で 2014 年度の西南支部総会を開催いたしますので、参加くださいますようお願いいたします。

1. 開催場所 琉球大学理系複合棟 1 階 102 講義室
2. 開催日時 2014 年 12 月 5 日（金） 12：15～13：00（地区合同シンポジウムの昼食時）
3. 報告
 - 1) 2014 年度事業報告
 - 2) 会計報告
 - 3) その他
4. 議題
 - 1) 2015 年度支部役員
 - 2) 2015 年度事業計画
 - 3) その他

3. 2014年度支部役員(支部長, 副支部長, 幹事)

支部長：山城 徹（鹿児島大学）
副支部長：宮地邦明（水産大学校・名誉教授）
事務担当幹事：中村啓彦（鹿児島大学）
水産海洋学会担当幹事：山田東也（西海区水研）
海洋気象学会担当幹事：藤本敏文（福岡管区气象台）
平成26年度例会担当幹事：久木幸治（琉球大学）
平成27年度例会担当幹事：万田敦昌（長崎大学）

4. 後記

事務局を鹿児島大学でお引き受けしてから2年目になりました。普段は西南支部の事務局であることを意識するようなことはありませんが、春と夏の海洋学会がやってくると、評議会で活動報告をする立場上、嫌が上でも意識させられます。海洋学会では、学会内の部会活動として、古くからの沿岸海洋研究会の他に、教育問題研究会、海洋環境問題研究会、ブレイクスルー研究会といったものが近年設立され、学会活動も多彩化しています。そのような中で、西南支部の持ち味は何だろうかと考えさせられます。私自身は、無理せずに細く長く活動すること、すなわち、年1回の支部例会（九州沖縄地区合同シンポジウム）を、西日本海洋調査技術連絡会議の翌日に合わせて各地域持ち回りで開催し、開催者（シンポジウム・コンビーナー）の特色を活かしたテーマで学術情報の発信と人的交流を続けることではないかと思っています。今年度の支部例会は、はじめて沖縄で開催されます。どのようなシンポジウムになるのか楽しみにしています。

本ニュースレターは支部会員および西日本海洋調査技術連絡会議会員機関へお送りしています。本支部は西南地区（山口県、九州7県、沖縄県）の海洋学の進歩普及を図ることを目的として海洋学会内に発足した組織ですが、地区内に在住しない方でも、海洋学会に所属しない方でも入会できます。お近くに、西南支部への入会を希望される方がおられましたら、ご連絡ください。今のところ、海洋学会の会員名簿を利用して、新規に西南地区へ加入・転入された方へは自動的に、また、地区外へ転出された方へも継続的にニュースレターをお送りしています。

（事務局：中村啓彦）

本ニュースレターに関するご意見や投稿したい情報等がありましたら、下記へお知らせ下さい。

日本海洋学会西南支部事務局
鹿児島大学水産学部（中村啓彦）
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
電話：099-286-4100（直通） Fax：099-286-4015（総務係）
E-mail：nakamura@fish.kagoshima-u.ac.jp

日本海洋学会西南支部ホームページ
<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/oed/swb/swb.html>
